

2018年度 決算報告

売上高 168,314 百万円、 経常利益 122 百万円

TSUTAYA 店舗で取り扱う商品の商物流事業会社、株式会社 MPD（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：奥村景二）の2018年度の売上高は、168,314 百万円（前年比 93.1%）、経常利益 122 百万円（前年比 29.1%）の減収減益の決算となりました。

第5次中期経営計画初年度としてスタートした2018年度の上半期は、主力アイテムの売上不振、及び物流費高騰などの影響を受け、厳しいスタートを切りました。下半期は、事業拡大に向けた文具雑貨の物流倉庫移転や、既存アイテムにおける物流拠点再編の投資効果実現の早期化に加え、TSUTAYAの新業態である草叢 BOOKSの売上拡大等、利益構造の変革を進めてまいりましたが、主力アイテムの落ち込みをカバーすることができず、減収減益の決算となりました。

取り扱い商材のアイテム別で最も大きく影響を受けたのが、昨年度「Nintendo Switch」で売上を堅調に伸ばした GAME 商材であり、対前年▲6,267 百万円（前年比 76.8%）と減収、同様にレンタル商材においても映像配信等の影響を受け、対前年▲3,422 百万円（前年比 73.7%）と大幅な減収となりました。

一方、書籍・雑誌の合計は、対前年+1,473 百万円（前年比 101.5%）と書籍の売上が伸びたことにより増収となりました。文具雑貨事業については店舗数が対前年+97 店舗となり、売上高は対前年+578 百万円（前年比 115.0%）と店舗数、売上高ともに堅調に推移しております。

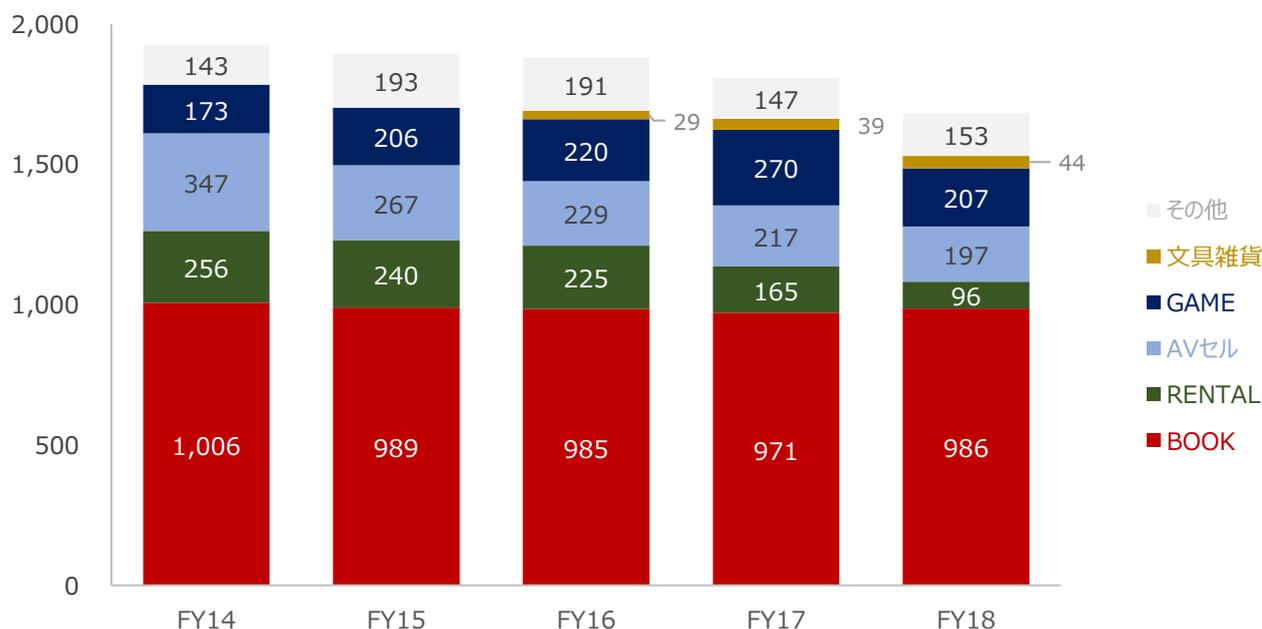
また、草叢 BOOKS についても対前年+134 百万円（前年比 119.8%）と、大きく増収となりました。

経常利益は、上半期に行った文具雑貨商材の物流倉庫移転や、草叢 BOOKS の改装投資が減益の主な要因となりました。投資効果の実現を早期化することや、継続的な経費圧縮で、下半期は 196 百万円（対前年+7 百万円）と増益となりましたが、上半期の減益をカバーできず、2018年度としては 122 百万円（対前年▲297 百万円）と大幅な減益の決算となりました。

なお、法人税等を加減した当期純利益は 16 百万円（対前年▲197 百万円）となります。

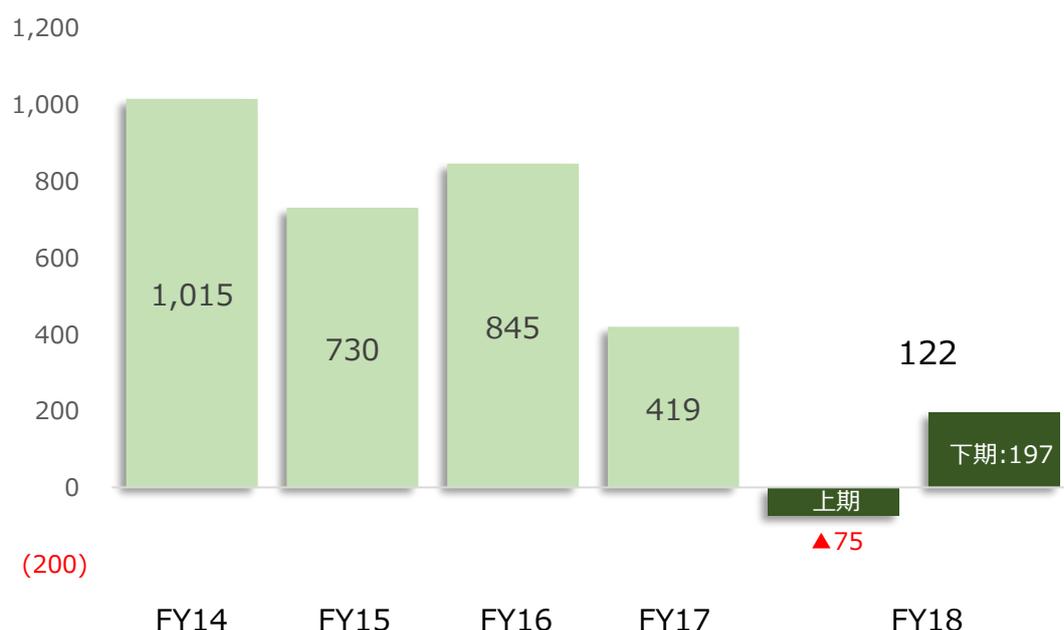
■ 2014年～2018年度 売上高

単位：億円



■ 2014 年～2018 年度 経常利益

単位：百万円



■ 対処すべき課題と 2019 年度の見通しについて

国内経済は、消費増税、物流費の更なる高騰など不透明な状況が続くことが見込まれます。そのような経済状況を背景に、当社の今後の見通しとして、BOOK 商材においては、雑誌に引き続き書籍の買切による返本率の改善に取り組み、卸・取引書店様の収益改善を実現します。2018 年度ダウントレンドであったセル音楽・映像商材・GAME 商材においては、ヒットタイトル発売の予見があり、店舗数を 403 店舗まで伸ばしている文具雑貨においては、更なる取引店舗の拡大が見込まれます。

TSUTAYA の新業態としての草叢 BOOKS は、今まで以上に地域の皆様に愛される店舗へと成長していくとともに、草叢ブランドから派生する事業にも注力し、書店としての新たな役割を生み出していきます。

既存事業、TSUTAYA 新業態事業、新規戦略事業の 3 つの柱を中心に、それぞれの戦略実現を加速化させ、中期経営計画の目標である利益構造の改革を進め、新たな企業価値の創造に取り組んでまいります。

《株式会社 MPD 概要》

本社所在地 東京都渋谷区南平台 16-17 渋谷ガーデンタワー13 階

代表者名 奥村 景二

- 事業内容
- ・書籍、雑誌、音楽、映像ソフト、ゲームソフト、文具雑貨等の卸販売
 - ・エンタテインメント関連商材の卸販売
 - ・関連商材の卸販売、中古品（音楽、映像、ゲームソフト等）の売買
 - ・レーベル事業

<本件に関するお問合せ窓口>

株式会社 MPD 社長スタッフ室：田村、諏訪部

TEL 03-5784-5030